

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	③-15	実施計画番号		事業開始年度	27
事務事業名	三本木霊園への指定管理者制度導入の準備			事業終了年度	27
担当課名	まちづくり支援課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	三本木霊園の管理に民間の能力を活用することで、多様化する施設利用者のニーズに、より効果的、効率的に対応し、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減を図る。				
事務事業の目的	三本木霊園の管理について、利用者へのサービスの質や経費等の観点から、指定管理者制度の導入について検討する。				
実施状況	業務内容及び削減コストの比較検討を行った結果、指定管理者制度になじまず、管理体制業務内容の見直しによる経費削減が可能と判断し、導入しないことを決定した。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)		1	
	活動日数(日)		30	
	人件費(千円)	0	1,080	0
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
期間業務職員	人件費(千円)	0	0	0

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	0	0	0
うち一般財源			
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①					
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
成果指標	成果指標名①					
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			目標値			
			実績値			
			達成度(%)			
	成果指標名②					
	計算式等	単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			目標値			
			実績値			
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市が公共墓地を運営することについては、公衆衛生及び公共の福祉の確保の観点から妥当である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	市が公共墓地を運営することについては、公衆衛生及び公共の福祉の確保の観点から妥当である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
市が公共墓地を運営することについては、公衆衛生及び公共の福祉の確保の観点から妥当である。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">常にほぼ全ての区画が使用されており、有効に活用されている。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	常にほぼ全ての区画が使用されており、有効に活用されている。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	常にほぼ全ての区画が使用されており、有効に活用されている。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1	3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">3 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">民間委託を含め、維持管理の手法を見直すことで、コストの削減を目指していく必要がある。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	3 / 6	民間委託を含め、維持管理の手法を見直すことで、コストの削減を目指していく必要がある。	
	コスト削減の余地	3 / 6								
	民間委託を含め、維持管理の手法を見直すことで、コストの削減を目指していく必要がある。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	C	0							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">利用者から管理費を徴収しており、受益者負担の観点において公平である。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	利用者から管理費を徴収しており、受益者負担の観点において公平である。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
利用者から管理費を徴収しており、受益者負担の観点において公平である。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					17 / 20	改善の余地	3 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

効率性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

常に維持管理事業費の削減を検討しながら、継続して事業を実施する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

維持管理作業の民間委託も含めた管理体制の見直しを検討する。